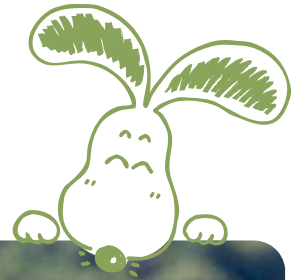


じょいんと

あなたにとっての男女共同参画とはなんですか？

- インタビュー 藤井律子市長
- セミナー「ニュースを読む～記事に見る、男女の視点の違い」細見三英子氏
- 周南の女性が活躍する現場から
- 周南のIKUMEN





じょいんと市長インタビュー

周南市
藤井律子市長

JOINT INTERVIEW

周南市初の女性市長でもある藤井律子市長に
今後の男女共同参画の施策などについてうかがいました。

○議員から市長になられて、環境また日常生活はどのように変化しましたか？
また、どのように市政に取り組むか教えてください。

もっと市民に寄り添う市政に。

県議のときは、県民からの提案を知事や市長等に要望する立場でした。市長は、その要望を受け、施策に反映できるようであれば、財政などの裏付けをし、決定する立場です。また、県議のとき以上に市民の方との距離が近くなり、直接お話しする機会が増えるなど、環境が大きく変わったことで、市民の声をしっかりと聞き、市民に寄り添いたいと強く思うようになりました。

私は、「慮る」(おもんばかる)という言葉が大好きです。みんながお互いを慮れば良い関係ができるとともに、優しい思いやりに満ちた社会ができると思います。

プロフィール

昭和41年 徳山市立須磨小学校 卒業

昭和44年 徳山市立須金中学校 卒業

昭和47年 山口県立徳山高等学校 卒業

昭和50年 広島大学医学部附属看護学校卒業

昭和50年～昭和54年

広島大学医学部附属病院勤務

平成15年～平成31年 山口県議会議員 4期

令和元年5月25日 周南市長 就任

○子育て、介護、仕事と、重なった時にどのように乗り越えられましたか？

家族三世代の助け合いで、今の私があります。

独身時代は看護師をしていましたが、結婚と同時に退職。3人の子どもに恵まれ、家族7人の三世代同居となりました。子どもが小さい時は、両親に子育てに協力してもらい、また、子どもたちが成長してからは、義母の介護を手伝ってもらうなど、家族三世代で助け合って暮らしてきました。個人的には三世代間同居や近居は、とても有益なことだと実感しています。

○子どもを育てやすい環境とは？

子ども達に、生き抜く力を持ってもらうために、 地域と学校が一体となった活動に注力したい。

少子化の影響もあり、近所で子ども同士が遊ぶことが少なくなったように思います。このような状況を受け、放課後子ども教室や放課後児童クラブなど、地域と学校が一体となった活動がますます重要になっています。子ども達には、「生きる力」だけでなく、逆境に耐え、乗り越えていく「生き抜く力」を持ってもらいたいと思います。そのためには分野にとらわれずいろいろな体験をして、それを財産にしてもらいたいですね。

○高齢者の生涯学習、特に文化活動などは、生きがい対策になると思いますが、
どのようにお考えですか？

生涯学習、文化活動は、生きがいづくり、仲間づくり、 地域づくりにも繋がる。

生涯学習、文化活動は非常に重要だと思います。学びを重ねること、それを継続することは大切で、それらは生きがいづくり、仲間づくり、地域づくりにも繋がっていきます。周南市は、市民センター等における活動の醸成はできていると思いますが、その発表の場がまだまだ少ないので、その機会をもう少し増やせればと考えます。発表の機会があることで、活動意欲や内容の充実が図られれば素晴らしいことであり、また、高齢者が元気でおられることは、周南市全体の活気にも繋がります。

活動を継続することで、頭も柔らかくなり、何より心が柔らかくなるのではないのでしょうか。

なお、昨年10月から市役所のシビック交流センター2階の掲示スペースを「市民ギャラリー」として、絵画や写真など、皆さんの作品の発表の場に提供しています。ぜひご利用ください。

○最後に、周南市の男女共同参画社会の実現に向けて、また女性の活躍推進について、
どのように進めていかれるのでしょうか？

男女の枠にとらわれず、その人が「自分らしく」いきいきと 生活できるまちにしていきたい。

昨年の11月に開催された全国女性首長会議(全国で女性市長は26名)に参加した際、会議では「女性に首長は無理!」と言われながらも、それをバネに頑張ってきたという女性首長の声を多く聞きました。私自身、県議時代には、男性社会の中で、鎧を身に付け、爪先立ちして活動した時期もありました。しかし、鎧は人の話を撥ね返してしまうし、爪先立ちの足元は不安定で、何より疲れてしまう。そのことに気が付いた時から「男らしく、女らしく、よりも自分らしく、生きよう」と考えるようになりました。

私は市長として、誰もが男女という枠にとらわれず、その人らしく、社会のあらゆる分野で個性や能力を発揮し、活躍できるような社会の実現を目指したいと思います。

今後、関係機関や団体と連携して、地域で女性の雇用を支える仕組みづくりを図るなど、働きやすい職場環境づくりに努め、男女共同参画の取組を推し進めてまいります。



インタビューを終えて編集委員と記念撮影



周南市男女共同参画セミナー兼企業職場ふれあい人権セミナーから 令和元年10月16日(水)11時～12時30分 徳山大学にて

『ニュースを読む～記事に見る、男女の視点の違い』

フリージャーナリスト細見三英子氏が報道の中に気づくさまざまな課題

SEMINAR 新聞と女性について

『性犯罪』の発見

かつて「新聞の社会面を読む会」の報告で知った殺人事件の内訳に、男性より女性が多く殺され、しかも知らない人に殺されている事実があった。そこに「性犯罪」の概念が浮かび上がり、私が初めて気付き、記事にしてきた。女性の視点だからこそ気付けた事実で、数多く発生する犯罪事件の中には、性犯罪とはっきり分けられていない事件も多かった。

しかし、これまでの30年の歴史の中で社会の認識は変わってきた。以前、強盗は強姦より重い罪になっていた。しかも親告罪で告訴して成立する強姦罪は、裁判で、どれだけ抵抗したのかなどと聞かれ、被害者への心理的な負担が大きく、告訴された事件は、犯罪実数の一割にも満たなかったと言われる。だが、その人権を無視した罪は重大であり、多くの働きかけにより、2017年に110年ぶりの刑法改正で、強姦罪が「強制性交罪」「準強制性交罪」となった。親告罪ではなくなり、被害者が告訴しやすくなった。とはいえ犯罪の中で、性犯罪として出てくるのはまだまだ氷山の一角である。私は、この歴史を知って被害者の気持ちを忘れず、次世代に伝えてほしいと思っている。

2000年代の新しい言葉

「セクハラ」「DV」「レイプドラッグ」

昨今、各企業で「セクハラ」への対応は改善されているように見える。かたや「DV」は新しい性犯罪の形になってきている。ましてや「レイプドラッグ」は、被害者が証明できないような犯罪で、新しい人権課題が生まれている。このような薬の存在を「これはいけない」と言えることが人間性であり、重要である。

児童虐待とDVの重なり

年間15万件のうち8割が重なっている。

記憶にも新しい目黒区女児虐待死事件。その背景には児童虐待とDVの密接な関係がある。暴力を止められなかった母親も、父親からのDVを受けていた。子供の目の前でやる暴力は「面前DV」として児童虐待となる。

再婚によりステップファミリー（子供連れで再婚した夫婦など）となった父親には「理想の家庭を作りたかった」「子供を立派に育てなければならぬ」こだわりがあった。

父親「お前のためにやった」「お前は能無しで育児ができないから俺がやってやる」

母親「私はダメなんだ」上下関係ができ、父親の言うとおりになっていた。

新しい家庭を作るためにはさまざまな障害があるが、彼らは理想の家庭の作り方を学んでいなかった。

この事件の何をどう捉えるかで記事は変わる。何に痛みを感じるかは男性記者と女性記者には違いがある。裁判などの取材には、女性記者と男女共同参画の視点を持った男性記者が必要である。

包括的支援の必要性

児童虐待防止法 48時間ルール

「48時間以内に現場に行きなさい」「もし暴力があれば、即親と子を分離す」というルールがある。しかし課題は、そのルールを適切に実行できる人材育成であり、DVに敏感な感覚を持った人を育てることである。両親が拘束され、残された子どもたちはどのように生きていくのかということまでも考えながら家族を再生していかなければならない。

プロフィール

細見三英子

京都府生まれ。京都大学教育学部卒業。産経新聞社に入社。主に家庭面文化面を担当し、女性、家族、親子関係、教育問題に取り組む。1985年、ナイロビの世界女性会議を取材。1986年、統一後のベトナムを民間人として初取材。以後、北京女性会議など、数々の取材を手がける。2003年春からフリーに。女性、家族、教育問題ジャーナリストとして活躍中。大阪市男女共同参画審議会委員、大阪市政改革本部専門委員。主な著書に、『親と子の日本史』『坂の上の雲をゆく』『20世紀特派員』(以上、共著)『家族とは』『食生活のガイドブック』など。

桜木地区民生・児童委員

平成19年就任

宮下 眞知子さん



Q1. どういった時にやりがいを感じますか？

笑顔で、感謝のことばをもらった時はすごく嬉しいです。また、民生委員児童委員協議会の情報誌「かけはし」の編集委員長をしています。毎号を無事に発行できた時は達成感を感じます。

Q2. 印象に残っていること、ありますか？

気がかりに思っていた方が、不慮の事故に遭われたこと。関係機関等と相談していましたが、もう少し早く動いていたら事故は避けられたのではと、今でも悔やんでいます。

Q3. 女性の委員で大変だったこと、よかったことは？

桜木地区はとても仲が良く、大変なことはありません。男性8名、女性4名で、会長が女性ということもあって男性が女性委員の言うことをよく聞いてくれます(笑)。

Q4. ご自身で心掛けていることは、何ですか？

声かけは、できる限り玄関先で行い、しっかり様子を観ています。あまり深入りはせず、問題があると感じたらすぐに関係機関等に繋がります。個人情報厳守します。

Q5. 今後、民生委員・児童委員を続ける中で、変化や課題も含め、どのようにしていきたいですか？

自分の健康に気をつけ、オーバーワークにならないように心掛け、福祉員さん等ともよく相談して手分けをし、「笑顔で元気に」活動していきたいです。

須々万地区主任児童委員

平成13年就任

秋重 美津子さん



Q1. どういった時にやりがいを感じますか？

小さかった子が成人し、中には母親・父親になっても、気軽に声をかけてくれます。その時の笑顔は忘れられないし、やりがいを感じます。

Q2. 印象に残っていること、ありますか？

ぴりりクラブという子育て支援活動をずっとやっていますが、「ぴりりクラブがあるから、次の子も産みたい。」ということばを貰った時、涙が出ました。民生委員のタスキを掛けて小・中学校で立哨をしていますが、大きな声で挨拶をしてくれ、「秋重のおばちゃん!」とってくれる子どももいます。

Q3. 女性の委員で大変だったこと、よかったことは？

主任児童委員はほとんどが女性です。男性が必要な場面もありますが、それで問題を感じたことはありません。私が女性であるからか、お母さん方は相談しやすいようです。

Q4. ご自身で心掛けていることは、何ですか？

見守りが一番大切。訪ねて行くことはあまりしませんが、問題が起きた時は、地域の民生委員・児童委員と連携し、学校や教育関係に繋ぐようにしています。

Q5. 今後、民生委員・児童委員を続ける中で、変化や課題も含め、どのようにしていきたいですか？

子どもたちには平和に育ってほしい。私たちが不必要なことが一番良いことです。困った時に声をかけられる「知っているおばちゃん」になりたいと思います。

ご存知ですか？

なくてはならない！

民生委員・児童委員の活躍！

担当地区の高齢者や障害のある人、子どもたちの見守り、心配事の相談や専門機関へのつなぎ役をしています。また、主任児童委員は、児童委員と協力して、子どもや子育てに関する支援を専門に担当しています。委員には、相談内容の秘密を守る義務があるため、関係機関と連携をとる必要があるときなどを除いて、相談した人の秘密は守られます。

こんにちは、周南市男女共同参画推進員です！

人の心や習慣を変えるのってなかなか難しいものですね。私たち推進員一人ひとりの働きは小さいものですが、いろいろなところに出向き、いろいろな方法で、幅広い世代の方たちに「男女共同参画」の大切さをアピールしています。



比上 行夫

男女が、お互いに尊重しあって働き、生活していくためには、お互いの違いを理解して、寄り添っていくことが理想です。活動を通して、その思いが少しでも皆様方に通ずるように、今後とも頑張りたい。



松田 和子

男女を問わず、色々な悩みに寄り添える活動ができたらと思います。身近なところから心掛けることが大事ですね。



岩倉 美恵子

私自身、まだ「男だから」「女だから」と口にすることがあります。まずは自分が変わらなきゃ！この活動を通して、出会った人たちとともに「認め合い」「思いやり」の輪を広げていけたらと思います。



大林 恵子

推進員として、研修・活動を重ねていくことで自分がいかに固定観念にとらわれ、考え方が片寄っていることに気づかされました。誰に対しても、構えず、片寄らない生き方をするために、自分から参画し、発信していきたいと思っています。



中村 美江

男女という仕切りではなく、オールジェンダーの時代となりました。尊敬と尊重を大切に「One Team」社会となるよう、自分らしく活動していきたいと思っています。



長岡 寛

男女の性に縛られず、個性を発揮することができれば、もっとよい世の中になるとと思います。そのための意識改革を心掛けています。



田中 日出昭

男女共同参画を実現するには、一人ひとりが男女の差別、偏見をなくし、相手を思いやり、自分でできることは自分ですることが大事だと思う。



吉森 信雄

男女が、お互いを認めて思いやりをもって、いつでもどこでも、まずできることから初めて、みんなの笑顔が出会う暮らしやすい社会に「男女共同参画」が発信できたらいいと思う。



尾中 ひとみ

男女の役割がはっきり別れていた時代から、女性も働くようになった現在、「男女共同参画」ができていっているように思います。まず、学ばなければいけないのは自分だという思いで活動しています。

市内各地でさまざまな活動をしています！

市民センターでワールドカフェ開催



令和元年6月25日 勝間市民センター
参加者のみなさんからさまざまな意見が出てきます。参考になります！

手づくりや周南市の民話をもとにした紙芝居を上演



令和元年10月27日 ゆめプラザ熊本
恒例の「周南子どもゆめまつり」での紙芝居上演

募集中!

手づくりの紙芝居の貸出、出前トーク(紙芝居の上演)を行っています。
お申込みは、男女共同参画室 ☎22-8205へ

周南のIKUMEN FILE

子育ての協働実践

育児休業制度などを活用し、子育てを協働実践しているご家庭の今をお伝えします。

周南市

小田さんご家族

- 長女 志織ちゃん 2019.7.10生まれ
- お父さん 教諭 兵庫県神戸市出身
- お母さん 会社員 長野県出身

- ・お母さんの産前産後休暇・・・令和元年6月～9月中旬
- ・お父さんの育児休業・・・令和元年9月1日～令和2年3月31日

過去に例がない事で、驚かれましたが、理解と協力をいただいております。

●職場の反応はいかがですか？

頼れる親族が近くにいないこともあり、昨年1月の冬休み明けに育休取得の希望を校長に伝えました。新学期より3年生の担任の可能性があったこと、併せて過去に例がないのでびっくりされました。復帰して、これまでと同じクオリティで授業ができるのかという不安はあります。



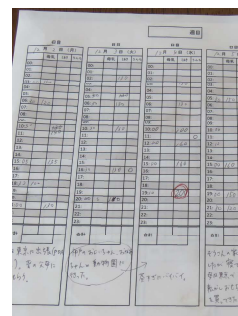
パパに抱っこされてご機嫌の志織ちゃん

夫婦で出来事を共有するためのノートは、大切な育児の記録です。

●育休に入るまで、入ってからのことを教えてください。

産後8週間で妻が職場復帰しました。妻の復帰2週間前から自分も育休に入り、その間に育児の流れを身につけました。現在、妻が7時には家を出て、19時頃帰宅するまでの間は一人で育児をしています。授乳は、搾乳して冷蔵してある母乳と、粉ミルクの混合です。

午前中は、子育て交流センター「ぞうさんの家」や徳山駅前図書館のキッズライブラリー、周南市立動物園などに出かけたりしています。夕食は、妻が帰宅して作ってくれることが多いです。ミルクの回数や量などを記録しておき、夜、妻にその日の報告をして妻がそれを書き留めるノートを作っています。



二人の連携に大切な育児連絡ノート

育児休業ではなく育児就業。育児は女性がするという固定観念を捨て、これから父親になる人には、是非育休を取って欲しい。

●育休を取ってみてどうでしたか？

腱鞘炎になりました。赤ちゃんの抱っこは、予想以上にきついです。抱き方のコツなど、他のお母さん達から教えてもらっています。育児書を読み込んでどうして良いかわからないことがありますが、経験者の方のアドバイスで解決することもあり、育児は一人の力ではできないのだと分かりました。

育児を経験することで、保育士さんの仕事がいかに大変かも分かり、待遇を改善しなければ資格を持っていても仕事に就かない人が増えるだろうと、これまで気づけなかったところに目が向くようになりました。また、子どもを育てている同僚の女性が集中して仕事を片付け、定時に帰宅される理由も、深く理解できました。



オムツ替えも手際良く

街でお母さんが何人も子どもを連れて歩いていらっしゃるのを見ると、後ろ姿に敬礼しています。

これから父親になる人には、是非育休をとられることを勧めます。育児休業ではなく、育児就業だと思います。

働く女性が、妊娠、出産で仕事から離れる際の恐怖感も、感覚的に理解できました。育児は女性がするものという固定化された価値観は男女双方にあると思いますが、そういった思い込みの部分、自分は教諭という立場を生かして、教えていければと思っています。

●仮に2人目のお子さんができたら？ 育休、取ります。大変ですが…、取ります(笑)

取材を終えて…

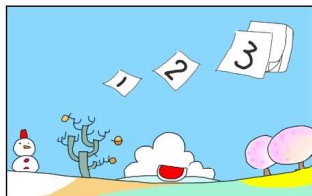
この日、終始良い子だった志織ちゃん。お父さんに抱っこされると、ニコニコご機嫌でした。それぞれの家庭にそれぞれの育児のかたちがあり、その中で育まれていく全ての命がきらきらと輝いていて欲しいと思います。



独断で編集委員が選んだ
じょいんと川柳

山陽小野田市「女と男の一行詩」より選出

illustration M|DORI©



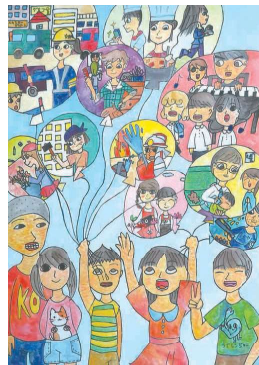
父さんが握ったおにぎりに僕の自慢

みんなのもよりいつも大きい

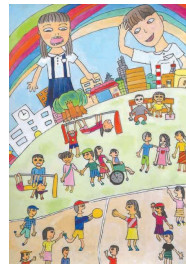
『家庭科5』だという父に「名札を縫って」と頼む母

仕上がり気にせず「ありがとう」

令和元年度 男女共同参画推進月間
ポスターコンテスト入賞者



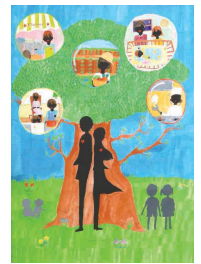
優秀賞
周南市立福川小学校
第6学年 **原田 愛さん**



入選
周南市立福川小学校
第6学年 入選
吉崎 舞さん



入選
周南市立福川小学校
第6学年 入選
室山 陽菜さん



入選
周南市立秋月中学校
第1学年 入選
金城 柚紀さん

DV 一人で悩まないで
相談してください。



パープル・ライトアップ

「女性に対する暴力をなくす運動」
期間 (11月12日～25日)

女性に対する暴力根絶のシンボルカラーにちなんで、永源山公園ゆめ風車をパープル・ライトアップしています。DVと虐待は密接なつながりがあるととして「児童虐待防止推進月間(11月)」には児童虐待防止のシンボルカラーのオレンジ色にライトアップしています。

女性の困りごとについて、女性相談員が対応します。

●こども・子育て相談専用ダイヤル ☎0834-22-0850
(受付時間 平日 8:30～17:15 土日、祝日、年末年始除く)

配偶者からの暴力(DV)に関する相談窓口

●配偶者暴力相談センター (山口県男女共同参画相談センター)

相談ダイヤル ☎083-901-1122
DVホットライン (緊急用フリーダイヤル) 0120-238122

●やまぐち性暴力相談ダイヤル

あさがお (山口県 24時間対応) ☎083-902-0889

●警察レディースサポート 110 (24時間対応フリーダイヤル)

0120-37838 または ☎083-932-7830

緊急時は、110番または最寄りの警察署へ



オレンジ・ライトアップ



家庭内の暴力からは、ひとりでは抜け出せません。
みんなに気づいてほしい —— DVや子どもへの虐待

DV被害に悩んでいる方を見かけたら
相談先を教えてください!

DV被害に悩んでいる方へ
がまんしないで、まずは相談を!

児童虐待に気づいたときは
すぐに連絡を!

DV相談ナビ
※お近くの相談窓口におたずねします。

0570-0-55210

児童相談所
全国共通
ダイヤル

189

● 相談や連絡に関する秘密は守られます ●